

里山里海アクティビティ

長野大学環境ツーリズム学部 里山里海実習

実施報告書

2011年11月3日（木）～5日（土）

里山里海と地域づくりをテーマに、長野大学から20人

金沢大学が能登で実施するプロジェクト「里山里海アクティビティ」がコーディネートをした、長野大学環境ツーリズム学部の里山里海実習が、11月3日（木）より2泊3日の日程で行われました。長野大学独自の認定資格「森の恵みクリエイター」コースの受講生と教員、本年度は新たな試みとして1年生も参加し、あわせて20名が参加。各地でおこなわれているエコツアーと、能登半島でおこなわれているエコツアーを体験し評価することを目的の中心に、保全と環境について学びました。



実習の目的

1. 能登半島でおこなっている、エコツーリズムの評価
2. 能登半島における、住民のジラス(世界農業遺産)にかんする評価の聞き取り
3. 里海をいかした伝統漁業の活用について学ぶ

1日目 伝統漁法を通じて能登の里海を学ぶ

1日目 プログラム

◆能登の伝統漁法「たこすかし」講義&体験

金沢大学能登いきものマイスター養成講座1期修了生、大瀧氏の「伝統漁法を活用して」として講義を受けた後、「たこすかし」を体験。

講義会場：ラプロ恋路

体験場所：能登町赤崎海岸 講師・体験指導者：大瀧信男 氏

ラプロ恋路にて入湯

◆夕食＆「まるやま組」活動の紹介

夕食は輪島市三井町「茅葺庵」。金沢大学能登里山マイスタープログラム4期生の萩の氏が主宰する、「まるやま組」活動を紹介。

講師：「まるやま組」代表 萩の ゆき 氏

会場：福嶋邸

夕食では、たこすかしで捕ったタコをおいしく頂きました。↓



「まるやま組」の紹介では、萩のさんが1ターンしてからの苦労話なども織り込まれ、よそ者視点の大切さを理解しました。 →



大瀧氏より、「たこすかし」の実技指導→みんな「たこすかし」に没頭中！



採りたてのタコは、すごく元気、いろんなところに吸盤でくっつきます。↓



← 大瀧氏より、「たこすかし」とは擬餌を使った漁法で、ホオズキ、笹の葉、ヨモギの葉、布等、様々なものを活用していることや、「すかし」は能登の方言で「だます」という意味で、地域によっては「たこさそり」「たこさすり」「たことり」など様々な呼び名があること等の講義をうけました。



↑ たこの内臓を取り除き、米ぬかを使ってヌメリをとる。茹でる前の下準備です。

2日目

エコツアー「竹取物語」で、能登の里山活用を体験する

2日目 プログラム

◆エコツアー「竹取物語」

まだ活用前の森に入り、チシマザサを刈り払って、活用できる森をつくる“保全体験型”のエコツアーに参加。レクリエーションも行い、能登の里山保全と活用を体験した。

株式会社 ぶなの森

国民宿舎やなぎだ荘にて入湯

◆夕食&宿泊

エコツアーにとっては重要な役割をもつ、「農家民宿」で夕食と宿泊。

宿泊場所：農家民宿 ひろ吉 & 農家民宿 大坪



↑農家民宿 ひろ吉



↓農家民宿 大坪

作業後は、木登り、目隠し木さがしなど、「森と過ごすレクリエーション」をおこないました。→



ぶなの木に看板を取り付け、「長野大学」が保全した証を残す。取り付けは、麻の紐を使い木に負担のこない方法で。→



保全作業前 →

保全作業は、大きな剪定ばさみで、チシマザサを根っこから刈り取っていきます。↓



保全作業中 →



保全作業終了後にみんなで記念撮影。笹を刈っていると無心になれるといった意見も学生からできました。→



3日目

NPO法人能登半島おらっちゃんの里山里海の活動と里山里海食堂「へんざいもん」

3日目 プログラム

◆NPO法人能登半島おらっちゃんの里山里海の活動紹介

珠洲市旧小泊小学校を活用し、里山と里海の保全を主な目的に掲げ設立された、NPOの活動紹介と、保全林の見学。

講師： 研究員 赤石大輔 氏

◆昼食 里山里海食堂「へんざいもん」

※輪島の白米千枚田を見学して帰途



←「へんざいもん」では料理と食材を解説いただき、「へんざいもん」とは方言で家の周りにある食材をさし、地産地消を主にした食堂であるとの説明をうけました。



←赤石研究員より、荒廃した松林の保全活動で有用な資源が生まれることや地域とのかかわりなどの講義を受けました。



講義の後は、NPOが保全管理している松林の見学。→



←保全整備により、食用のキノコなどが増え、山菜のワラビやゼンマイ、コシアブラ等も増えました。二人が撮影しているのは、センブリ。林内いたるところで見かけるようになりました。

